

第 233 回 東京支部技術フォーラムのご案内

患者に寄り添う医療の提供は、医療従事者として必要な心構えです。患者接遇という言葉の意味を考えた事がありますか？接と遇という漢字は表外読みでどちらも「もてなす」と読みます。もてなすとは心をもってお世話をすること。つまり接遇とは、思いやりの心をこめて相手に接することです。患者を思いやることは、患者の立場に立ち、患者の考えや気持ちに思いを寄せることではないかと思えます。

マンモグラフィでは、正しいポジショニング技術の獲得とその正しいポジショニングを行うために、患者とのコミュニケーションが重要です。

第 233 回東京支部技術フォーラムでは、『患者に寄り添うマンモグラフィ』をテーマに、マンモグラフィを撮影する診療放射線技師としてどのように患者に寄り添ったマンモグラフィを提供できるのか考え、学ぶ機会にしたいと思います。

第 1 部は乳がんサバイバーでもある、折本えみり氏より、乳がん治療を受けた患者の目線からどのようなコミュニケーションが必要なのか、どのような接遇が求められるのか学びます。

第 2 部は「手にとるようにわかるマンモグラフィ撮影」の著者である聖路加国際病院の小山智美氏をお招きし、正しいポジショニングのいろはを学びます。小山氏はマンモグラフィ撮影技術の第一人者であり NPO 法人日本乳がん検診精度管理中央機構の技術委員としてポジショニング指導でご活躍されています。正しいポジショニングを我ら診療放射線技師が学び、どの撮影技師でも同じ精度のポジショニングでマンモグラフィ撮影ができる環境にあることも患者に寄り添う医療の提供につながるのではないのでしょうか。

これからマンモグラフィ撮影を始める技師、認定技師取得を目指す技師から認定技師まで、マンモグラフィの撮影向上を目指す技師であれば必須の内容です。多くの参加を心よりお待ちしております。

日 時 : 2018 年 7 月 4 日 (水) 18:30~20:30 (18:00 受付開始)

会 場 : JR 総合東京病院 病棟地下 1 階 講堂

〒151-8528 東京都渋谷区代々木 2-1-3

参加費 : 会員 1,000 円 非会員 2,000 円 学生会員 無料 学生非会員 500 円

事前申込 : 不要

プログラム : テーマ「患者に寄り添うマンモグラフィ」

1) 18:35~19:10

患者から見たコミュニケーション～乳がんサバイバーより～

折本えみり

2) 19:15~20:25

ポジショニングのいろは

聖路加国際病院 小山 智美

問 合 先 : 公益社団法人 日本放射線技術学会 東京支部 乳房撮影技術研究班

E-mail:srt.tokyo.mmg@gmail.com

担当 乳房撮影技術研究班